

東北学院大学 川内村第七行政区(東山)

東北学院大学金子研究室川内村プロジェクト

1.地区の概要と取り組むべき課題

- ▶ 川内村第七行政区（東山）
- ▶ 2011年3月11日 東日本大震災
- ▶ 2011年4月 警戒区域・緊急時避難準備区域指定（2012年3月まで）
- ▶ 2012年2月 帰村宣言
- ▶ 2012年4月 避難指示解除準備区域指定（2016年6月まで）
- ▶ 2016年6月 避難指示解除

- ▶ 半数以上の人びとが帰村したが、過疎高齢化が進んでいる。

- ☞ 1年目（2019年度）：地域の文化を記録する民俗誌の作成
- ▶ 明らかになった課題：地域内の寺堂・神社・小祠などの管理者がいなくなりつつある。

2.今年度実施した取組みの内容

▶横田さんのお宅からお借りした文書のクリーニング



冷凍殺虫

クリーニング

2.今年度実施した取組みの内容

- ▶現地(川内村)調査
- ▶石塔調査と聞き取り調査を行った

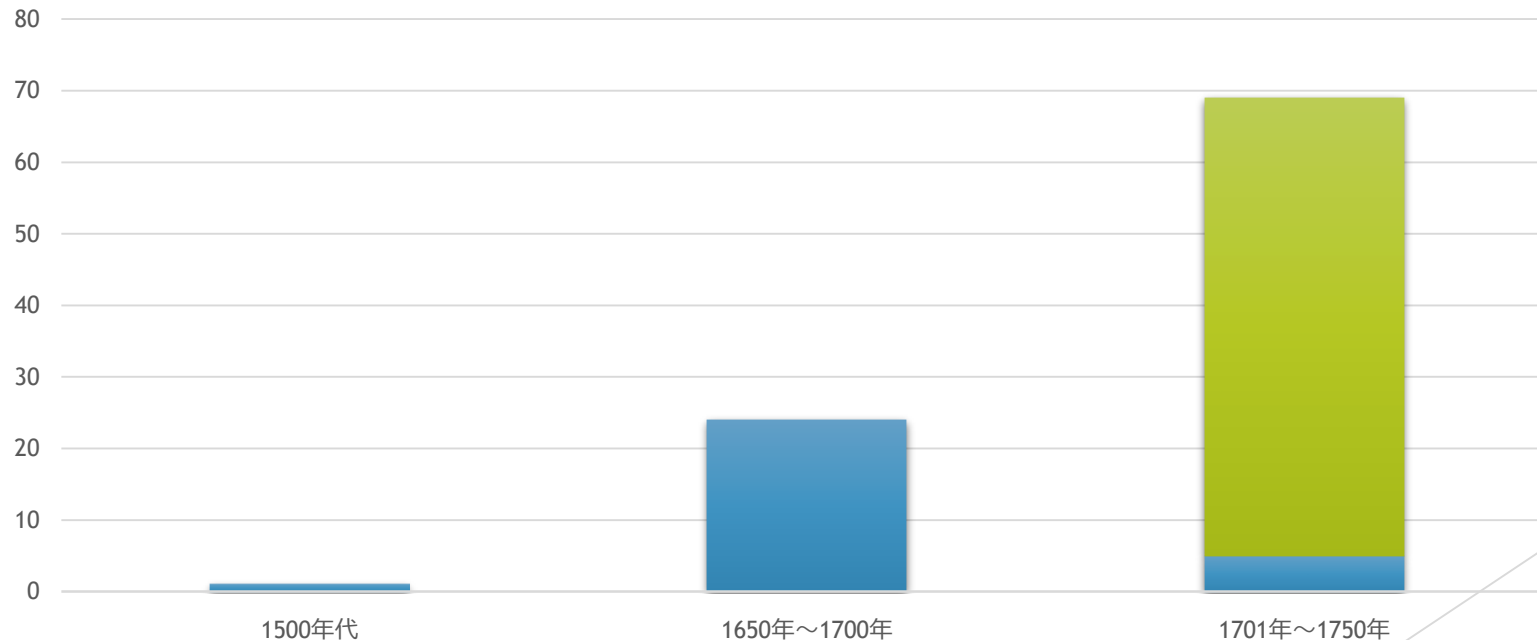


3.まとめ

①史料調査によって、1600年代後半～1700年代前半のお寺の宗教者のものであることが分かった。

⇒川内村の中でも特に古く、貴重な史料

寺院文書の年代別割合



◎特に1719年の文書が多い

3.まとめ

- ②石塔調査では、集落内の石塔を悉皆調査中。
村の主要な石塔は『川内村史』で調査済みであるが、そこには記載のない、現状村内最古（延享4年（1748））の石塔があることが確認できた。

- ③聞き取り調査では、東山観音堂に案内していただいた。かつて行われていた祭礼や管理組織についての確認をすることができた。震災前後の集落組織の変化が明確になった。

4. 今後に向けて

- ▶ 史料調査では、内容のさらなる解読を進める
 - ▶ 現地では、調査出来ていない石塔の調査を進め、記録する
 - ▶ 可能な範囲で聞き取り調査を進め、震災に関連したコミュニティの変化について理解を深めていく
- ◎ 川内村は、震災の影響で他の地域とは違う形でコミュニティが縮小している。石塔も除染作業の過程で撤去されるなど、数に変化が生じている
- ⇒ この地域にどのような歴史的文化があったのか、神仏が祀られていたのかを明らかにしていく事に、大きな意義がある。
- ⇒ 文化の由来を明らかにすることで、地域の文化的資源として位置づけが確かなものになる

これが将来的に地域活性化に繋がる